

野球部だより

大阪府医師会・徳島県医師会との親善試合

…野球部監督 権 成基…

今年は、9月9日に予定されていた三師会野球大会が中止となり、私個人としては何となく気の抜けた秋を迎えた気がしていました。歯科医師会、薬剤師会の監督も同様な心持でいたようで、お互いに練習試合を9月と10月に組むことになりました。まず初めに、薬剤師会と歯科医師会が県営球場にてナイターで対戦し歯科医師会が勝利しました。

次に、牟礼運動公園において医師会と歯科医師会がナイターで対戦、医師会の山地のホームランなどで快勝しました。最後に、医師会と薬剤師会が県営球場にてナイターで対戦し一方的な勝利をおさめました。練習試合とは言え、勝利したことは1年間練習を重ねてきた部員各人の喜びと満足感をもたらしてくれた事と思います。三師会野球大会5連覇は来年に持越しとなりましたが、それに向けた大きな自信にもなったと考えます。

さて、徳島県医師会野球部との交流戦は今年で6回目（1敗）、大阪府医師会野球部との対戦は3回目（1敗）となる今年、10月28日（日）に国分寺 B&G 球場において三つ巴の大会が、開催されました。

第一試合 午後3時から、大阪府医師会 VS 徳島県医師会

徳島県医師会の先発投手は大塚先生でした。緩急自在な投球術で大阪市医師会の強力打線を要所で抑えて序盤は拮抗した試合でした。しかし、大阪府医師会が中盤に先制すると粘る徳島県医師会を継投でおさえて5対3で勝利しました。

第二試合高松市医師会 VS 大阪府医師会
初回表

先攻の高松市は一番サード太田がセカンドゴロで一死後、二番センター河井がサード内野安打で出塁するとすぐさま二盗を決めた。続く三番ショート松本がセンター前ヒットを放ち、さらに二盗を決めて一死二三塁となった。ここで



四番レフト権はライト前にはじき返して2点を先制した。五番キャッチャー山地もレフトオーバー二塁打を打って再度二三塁としたが、六番ピッチャー赤井と七番ファースト武田が連続三振を取られた。

初回裏

医師会野球部に今年デビューのピッチャー赤井は久しぶりの野球で力んだか、先頭をストレートの四球で歩かせた。しかし、後続をピッチャーゴロ、三振、サードゴロと簡単に仕留めた。

二回表

先頭のセカンド松岡が三振したが、九番DH（ライト妹尾）の小川がライト前ヒットで出塁、一番太田四球で一二塁とした。ここで二番河井がレフト前に強烈なヒットを放ったがレフトがサードへ送球し、小川がフォースアウトとなった。三番松本は粘って死球で出塁し二死満塁となった。初回に先制打を打った四番権であったが、初球を芯でとらえた強烈な当たりはセカンドの好守に阻まれた。

二回裏

医師会のニューヒーロー赤井は、この回先頭の五番バッターをピッチャーゴロに打ち取り落ち着きを取り戻したようで、次打者にセンター前ヒットされたが七番を三振、八番には四球を与えてしまったが九番を三振とした。

三回表

この回、赤井がセンター前に初ヒットを放ったが、後続を断たれ得点できなかった。

三回裏

ヒットで気をよくしたのか、乗ってきた赤井は一番から始まる大阪市医師会を三者凡退とした。

四回表

流れをつかんだ高松市医師会が一番太田凡退の後、二番河井がレフトオーバー二塁打を放った。ここで三番松本に代わって好打者の井上を代打に送ったが三振した。しかし、ここでも四番権がセンター前ヒットを放ち1点を追加した。山地に代わって四回からマスクをかぶった五番三浦と六番赤井が連続四球で歩き満塁となったが、七番武田は三振した。

その後両者ともに得点なく、時間切れで高松市医師会が勝利した。ちなみに、赤井は四回1三振、五回は3三振を取りともに三者凡退であった。



終わってみればこの試合、新入部員の若い赤井が六回8三振で大阪市医師会を完封。四番に入った監督の権が3打点。若手をベテランが援護する理想的なゲーム展開であった。

高松市医師会 VS 大阪府医師会 平成30年10月28日(日) 国分寺 B&G 球場

チーム名	1	2	3	4	5		計
高松市医師会	2	0	0	1	0		3
大阪府医師会	0	0	0	0	0		0

1) 5 太田 2) 8 河井 3) 6 松本→PH→6 井上 4) 7 権
 5) 2 山地慎→2 三浦 6) 1 赤井 7) 3 武田 8) 4 松岡
 9) 9 妹尾→9 佐野 DH) 小川

第三試合高松市医師会 VS 徳島県医師会

この試合は毎年、徳島の大塚先生と高松の松岡先生の投げ合いが恒例となり皆が楽しみにしているのですが(おそらく、本人たちも…),今回は、大塚先生は第一試合で先発投手であったため、この試合は、出場しませんでした。

一回表

高松市医師会先発投手の松岡は徳島の先頭打者、武田貴志をショートゴロに。二番をピッチャーゴロ。三番をショートフライに打ち取った。

一回裏

一番センター河井がサード強襲ヒットで駿足を生かして二塁へ進むと、二番レフト佐野はセンターフライとなったが、三番ライト赤井と四番キャッチャー三浦はともに四球を選んで一死満塁となった。ここで、五番セカンド太田がレフト線に二塁打して2点を先制し、なおも二三塁とした。六番ショート井上のセンター犠牲フライで3点目を入れたが、七番サード松本はショートフライに終わった。



二回表

この先頭の四番に四球を与えて、大阪戦セカンド先発出場の疲れが懸念された松岡であったが、五番と六番を連続三振にうちとり、七番はセカンドゴロに仕留めた。

二回裏

松岡の代打で出場した権は四球で出塁後盗塁。九番ファースト妹尾も四球を選んだ。一番河井のショートゴロで一死一三塁となった。しかし、続く佐野と赤井はともに三振に倒れた。

三回表

この回から高松のバッテリーはキャッチャー権、投手三浦となった。三浦は力強いストレートを中心に投げてこの回を三者凡退とした。

三回裏

この回先頭の四番三浦がレフト前ヒットで出塁し二盗した。五番太田のショートゴロ内野安打の間に三浦が生還して4点目を奪った。太田二盗後六番井上がライト前ヒットで無死一三塁となると、七番松本の時に相手パスボールで5点目を取り井上は三塁へ進塁した。松本の三塁ゴロで好スタートを切ってホームへ滑り込んだ井上はホームタッチアウトとなり、一死一塁。しかし、八番権は四球で二三塁とチャンスを広げた。九番妹尾はファーストフライで二死となったが、一番河井のレフトオーバー三塁打で2点を追加、さらに、二番佐野ライトオーバー三塁打で8点目を奪った。三番赤井は三振した。

四回表

三浦は無難な投球で徳島を抑えた。

四回裏

四番三浦からのこの回も太田、井上、松本の安打や河井の二塁打などで4点を追加し12対0となりコールドゲームとなった。



高松市医師会 VS 徳島県医師会 平成30年10月28日(日) 国分寺 B&G 球場

チーム名	1	2	3	4		計
徳島県医師会	0	0	0	0		0
高松市医師会	3	0	5	4		12

1) 8河井 2) 7佐野 3) 9赤井 4) 2→1三浦 5) 4太田
6) 6井上 7) 5松本 8) 1松岡→PH→2権 9) 3妹尾